【Ｒ１８】会話形式ノベル

『教育実習生が体験した、

混浴露天風呂体験学習』

作：七条右京

【主な登場人物】

・上神美波（うえがみ みなみ）：教育実習生

・花村桜花（はなむら おうか）：担任の女教師

・男子生徒の本木、赤井、永井、佐藤、羽田

英秀学園。

この学園では年に１回、クラス毎に混浴露天風呂体験学習と言う行事がある。

温泉旅館全館を貸し切り、教師も生徒も混浴を体験するというもの。

内湯から露天風呂全てが、全時間混浴となる。

混浴中は、タオルで隠す事は禁止。

但し、手でちょっと位隠すのは許容範囲。

露天風呂と言う開放された空間で、身も心も開放される。

☺

教育実習生の上神美波は、実習の為に参加する

事になった。

最初は、混浴に恥ずかしさと不安でいっぱいだった彼女だが・・・。

☺

秋日和、学園貸し切りのバスが１台が、見事な紅葉に囲まれた温泉旅館に到着した。

バスから降りた２年２組の担任女教師：花村桜花、教育実習生：上神美波、クラスの生徒たちは、旅館のロビーへと向かう。

旅館のロビーでは、部屋割りが発表され、生徒たちはそれぞれの部屋へと移動した。

☺

○到着後の桜花と美波の部屋

花村桜花（女教師）：

「あ～、バスの中、疲れたわね」

「いい景色」

「それに、なかなかいいお部屋ね」

上神美波（教育実習生）：

「そうですね」

「凄く癒されますね」

桜花：

「美波ちゃんは、どの浴衣にしたの？」

「いろいろ迷ったけど、私はこの浴衣にしたわ」

美波：

「私は、これにしました」

「紫が好きだから」

桜花：

「それじゃぁ早速だけど、浴衣に着替えましょう？」

美波：

「え～、もう着替えちゃうんですか？」

「早くないですか？」

桜花：

「早くないわよ」

「着替えて、露天風呂に入りに行くわよ」

美波：

「え〜、もう露天風呂に入るんですか？」

「ちょっと、なんか」

「わ、分かりました」

浴衣に着替えた二人。

桜花：

「浴衣姿、なかなか可愛いじゃないの」

美波：

「なに言ってるんですか」

「先輩の方こそ、すごく綺麗ですよ」

「先輩、混浴、恥ずかしくないんですか？」

「私、混浴なんかした事無くて」

「男子に裸見られるんですよね」

「私、恥ずかしいなぁ」

桜花：

「ちょっとは恥ずかしいけど、お風呂で裸はあたり前でしょう？」

「恥ずかしいのは最初だけ、そのうち慣れるわよ」

「今日は、その為の混浴露天風呂体験学習なんだから」

美波：

「ちょっと、不安ですよ～」

「私、大丈夫かな～」

☺

○露天岩風呂の脱衣所

美波：

「あっ、まだ誰もいないですね」

「良かった」

桜花：

「私たち、１番乗りかしら」

「さあ、脱いで、入りましょう」

美波：

「分かりました」

美波と桜花、浴衣と下着を脱いで、綺麗に畳んだ。

桜花：

「美波ちゃん、タオルで隠すのは禁止なのよ」

美波：

「あっ、つい、すみません」

美波、あわててタオルを退け、桜花の美しい裸体に見とれながら、露天岩風呂へと向かい、湯船に一緒に入る。

桜花：

「足元、気を付けないとね」

「あ～、気持ちいい～～」

「疲れが一気に吹き飛びそう」

美波：

「ほんと、いいお湯ですね」

「あ～、気持ちいい～～」

「ほんと、いい～～」

楽しく談笑しながら、露天岩風呂を楽しんでいる二人。

そこへ、脱衣場の方から声が。

桜花：

「誰か来たみたいね」

美波：

「なんか男子の声っぽいですよ」

「男子か、なんか恥ずかしいな」

桜花：

「美波ちゃん、いよいよ初混浴ね」

「楽しみね」

脱衣場で全裸になって、露天岩風呂に向かって来たのは、本木と赤井の男子２人だった。

美波・心の声：

『凄〜い、男子の裸』

『本木君と赤井君』

『全然隠さないから、おちんちん丸見え〜』

『こんなに明るい所で』

『しかも並んで』